

平成30年度第1回天童市総合教育会議議事録

総務部総務課

1 日時 平成30年11月20日(火)
午前10時30分から午前11時55分まで

2 場所 本庁舎「3階会議室」

3 出席者

(1) 出席構成員

天童市長	山本信治	教育長	相澤一彦
教育委員	井上正信	教育委員	本田孝之
教育委員	村山晴香	教育委員	松村昌子

(2) 説明のため出席した者の職氏名

教育次長	大内淳一	学校給食センター所長	高橋清見
学校教育課長	戸田一彦	生涯学習課長	村山裕二
教育総務課課長補佐兼庶務係長	横倉文男		

(3) 事務局職員の職氏名

総務部長	遠藤浩	総務課長	湯村耕司
総務課課長補佐兼行政係長	佐藤貴宏		
総務課行政係主査	丸子正彦		

4 議事録署名員

教育長 相澤一彦

5 次第

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 協議・運営事項

ア 天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について

イ 教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について

(ア) 平成30年度全国学力・学習状況調査による天童市の現状と課題について

(イ) 天童市「市民科」教科書作成について

ウ その他

(4) 閉会

6 会議の内容

発言者	発言内容
佐藤課長補佐 (司会)	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>(1) 山本市長あいさつ</p> <p>(2) 相澤教育長あいさつ</p>
山本市長	<p>3 協議・調整事項</p> <p>それでは議長を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>まず、天童市総合教育会議運営要綱第4条第2項の規定により、議事録署名員を指名させていただきます。</p> <p>相澤教育長にお願いしたいと思います。</p>
相澤教育長	<p>はい。</p> <p>(1) 天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について</p>
山本市長	<p>最初に、「天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について」説明を求めます。</p>
大内教育次長ほか	<p>(天童市教育大綱に基づく施策の年度上半期の総括について説明)</p>
山本市長	<p>今上半期の総括について報告がありましたが、私から一点。ピロリ菌の抗体検査で陽性と偽陰性が26、27%あったとのことですが、その内訳はどうなっているのですか。</p>
戸田学校長育課長	<p>陽性者が6.7%、偽陰性者が20%でした。</p>
山本市長	<p>3人に1人までではないですけれども、かなりの高い率であった。想定よりも高い率であったということですか。</p>

戸田学校教育課長	想定では二つ合わせて7～8%ということで始めた事業でした。
山本市長	受検率が82%ということですが、新聞とかの記事見たら、必ずしも肯定的な意見ばかりでもない。ただ少なくとも陽性、偽陰性が27%くらいはいるという事実が今回分かったわけですから、これを放っておくのは現場としてはよろしくない。そういったことから、やはり受検率は100%に。保護者の中でも考え方が色々あるのですが、その事実は事実としてきちっと受け止めてもらわないと、と感じたのですが、その辺りはどうなのですか。
戸田学校教育課長	この事業を始めるに当たって、除菌に使う薬の未成年者への治験がまだ十分に揃っていないという話もお聞きした部分もありますので、その部分に対する懸念もしっかりと持ちながら進めているところです。それについては保護者の方と治療に対して、しっかりインフォームドコンセント、共通理解に立って進めるようお願いしているところでもありますので、来年に向けて是非100%受検を目指して取り組みたいと思っております。
山本市長	子どもは血を採られることに相当恐怖感があるんだろうね。
戸田学校教育課長	今年も採血に当たって本課職員を1人派遣しているのですが、貧血で具合悪くなる子が各学校1人くらいずつおりますので、血を採られることについての抵抗感というのは大きいかと思います。
山本市長	その他何かございませんか。
井上委員	ICT教育の整備について、寺津小には何回か行っているのですが、非常に充実しております。この前一中に訪問で行ったときは、体育の授業でタブレットをカメラにして授業を受けながら指導していくという話を聞きました。素晴らしい効率的な使い方をしているなど思ったところです。ただ、色々話を聞くと、担当する先生方によって温度差がある

戸田学校教育課
長

と。これからは全ての教育においてそれを有効活用していかなければならないと。そのためには研修が必要であると思うのですが、研修については、市として、県と相談しながらやっていくとは思いますが、どういうふうにやっていくのかなというのが第1点と、自分の反省も踏まえてなんです、学校現場というのは一つの機器が入りますと、それにバツと飛びついていきます。そして、他のものを忘れてしまう。

学校ではこれからタブレットを導入していった場合に、ノートとかデスクトップとかをどういうふうに配置するのかということについては考えありますか。

それでは今御指摘いただいた点で、まずICTの研修については、2点あるかと思います。1点目は、研修がなかなか実のあるものにならないという反省も含めて、各学校でやれるような体制を作りたいということで、ICT支援員という制度を作って各学校に派遣しております。ICTに詳しい担当ですね。それで、資料作りでこんなこともしたいなどということも含めて相談に乗っていただくようにということで、ICT支援員という事業をして実のあるものとするようにしたいと考えているところです。これが第1点目です。

2点目として平成32年度から本格実施になります学習指導要領でプログラミング教育というものが求められております。実際に昔アルファベットで書いたコーディングというものを求められているわけではないのですが、このような考え方で進めることは大事だということをお学ばなければなりません。それについての研修会は、学校教育課でしなければならないということで、現在進めているところであります。それから、新たなものを入れなければならないかどうなのかということも含めて検討中であり、再来年度本格実施になるときに向けて動き出せるように準備しているところです。

機器の設置については、詳しくは教育総務課になりますが、タブレットを入れること自体がノートパソコンに代わるものだという事です。タブレット自体がパソコンになっているという状況で、見やすいようディスプレイを配置していただいても使えるという状況です。これから何年か先を見通した整備にはなっていると学校現場では捉えていますので、それをいかして実際の学力向上、思考力を高めること

<p>大内教育次長</p>	<p>にどうつないでいくかということについて、先ほど御指摘があった点も踏まえて取り組まなければならないと考えているところではあります。</p> <p>基本的に1クラス30台から50台くらいのものについてはタブレットを、先生方が使うものについては、事務でも使える汎用性の高いパソコンをと考えております。</p>
<p>山本市長</p>	<p>その他ありませんか。</p>
<p>本田委員</p>	<p>ピロリ菌の抗体検査の受検について、子どもたちが判断するものなのか、親が判断するものなのかということがあります。ピロリ菌については、子どもにいくら説明しても結局親が理解しないと難しいと思います。一般的に胃がんの原因はピロリ菌が90何パーセントと言われておりますが、一方で中学生の時点で対策をするのはどうなのかということも含めて、医学的なことは私も存じませんが、親に対しての啓発というのはどうしていくのでしょうか。</p>
<p>戸田学校教育課長</p>	<p>検査を受検するに当たり、学校では保護者の同意書をいただいております。保護者が同意すればということになっているのですが、子どもが絶対ヤダと言って、親がそうであれば無理に受けなくてもとなっているようなことも話に聞いております。一方、今回受けた子どもで、結果が陽性反応の子どもの親がびっくりして、自分もいるかもしれないということで、すぐに医者に行って自分も検査したといった例も聞いております。ですから、子どもだけではないということが大切だとは思いますが、親の世代となると、なかなかどうなのかというのがあります。</p> <p>あと、啓発の件についてですが、今回同意書を得るに当たって、ピロリ菌とはどういうものかということや医師会と共同制作のQ&Aを作ってお渡ししました。しかし、陽性反応の結果が戻ってくるとびっくりして。そんなに慌てることはないのですが、驚いてしまうということもありますので、来年度以降もう少し分かりやすい啓発の仕方について、この前市の医師会の方々と懇談の席では申し合わせをしたところです。ビジュアル的にもより分かりやすいものにしたいと思っ</p>

相澤教育長	<p>ています。本事業が始まった経緯は、高校生段階での胃がんでの死亡者が何パーセントかいるという事実を医師会の方からの御指摘があってスタートしている事業でもありますので、本当に必要なのかという御意見も色々ありますが、市民の健康を守るということで今進めさせていただいているところです。</p> <p>補足になりますが、去年までの貧血検査は受検率がだいたい70%前半くらいです。今回10ポイント以上上がっているということは、間違いなく関心が高まっているということだと思います。あとは、山本市長と一緒に13地区でまちづくり懇談会に行っておりますけれど、そこでこの検査の意味についても触れているところがございます。だから、先ほどのQ&Aがこれから充実していく、関心が高まるとともに、こういう可能性もあるということも含めて提示しながら、がんの知識や予防について高まっていくスタートとしては大変意味のある取組だったと感じております。保護者も間違いなく関心が高まっております。</p> <p>(2) 教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について</p>
山本市長	<p>次に、「教育委員会として今後重点的に講ずべき施策について」の「平成30年度全国学力・学習状況調査による天童市の現状と課題について」説明を求めます。</p>
戸田学校教育課長	<p>(平成30年度全国学力・学習状況調査による天童市の現状と課題について説明)</p>
山本市長	<p>ただ今説明がありましたが、皆様の方から御意見、御質問がありましたらお願いします。</p>
本田委員	<p>2番の学習状況調査の結果について、「好き」で「理解できる」のが大半というのはすばらしいと思いますが、この意味合いというのは、先生方の教え方が良いというように捉えるべきなのか。私はそう捉えたのですが、というのは、「好き」で「理解できる」という意識で授業を受けているということは、今の成績が少々悪くてもこれから期待できるという</p>

戸田学校教育課長	<p>読み解き方をすればいいのか。そういった所はどうお考えでしょうか。</p> <p>理解できるに丸が付いている指数が算数、数学は全国や県よりも天童市が良いということで、大変良い結果となっております。しかし、この理解できるということが、授業のレベルが高くて更に理解できるならよいのですが、どのレベルで子供たちが理解できていたかということによると思います。先ほどからの今後の活動で質を高めたいというのはそういうことです。学ぶことそのものの面白さを感じるような授業を作っていきたいと思います。</p>
本田委員	はい、ありがとうございます。
山本市長	他にございませんか。
松村委員	<p>天童市の状況について説明をいただいたのですが、天童市は、非常に明るく、ポジティブな子どもたちが多いなと感じているところです。この結果についてそのバックにある家庭の皆様目に触れることがあるのか、また、その結果を見た感想を聞くような機会があるのかどうかというところをお聞きしたい。</p>
戸田学校教育課長	<p>学校教育課として各学校には、学校で必ずこの結果と同じようなものを保護者に渡すように指導をしております。ただ、市内の他の学校と比べてどうということではなくやっておりますので、天童市としての結果が保護者に行くことはありません。</p>
松村委員	<p>結果をお知らせする必要が無いかをまた改めて考える必要があると思います。学校でやったこの丁寧な調査について、こういうことを実施してこういう良い結果が出ましたとか、家庭と生徒と地域で取り組んでいくという情報の交流というものを今後少しずつ広げていった方がより教育現場の活性化を促進させます。また、先ほどの学習指導の改善充実については、このことを学ぶことによって将来社会に出たときにどんな力がついて、どういうふうに社会に立ち向かっていける</p>

	<p>かというところまで、家族ぐるみ、地域ぐるみで一緒にシェアしていけるといいうところを目指していく必要があるのではないのか。学校の点数も大事ですが、その点数を緻密にまとめたものについて、大まかなところでの情報のシェアは必要になるのではないかと思います。</p>
戸田学校教育課長	<p>情報のシェアの仕方について、校長会を通じて一緒に考えていきたいと思います。</p>
山本市長	<p>今の件についてなのですが、外に出ていないのですか。</p>
戸田学校教育課長	<p>いえ、各学校には送っています。ただ、各学校では、学校の結果をお知らせしていますので、市としてこうですよとかいうことはない。各学校でこの結果を受けてこういう改善を図りますということを各学校でやっており、その割合をこのように増やしたいと述べている学校もあります。その辺のところは各学校に任せている状況です。</p>
山本市長	<p>他にございませんか。</p>
村山委員	<p>保護者の立場からすると、家庭学習はすごく課題になっております。他の保護者の方に聞くと、仕事もして、その後御飯を作って、スポ少に行つてということが毎日繰り返されている中で、2時間以上勉強するのが子どもも親も中々難しいという話を聞いたことがあります。ただ、家庭学習は、子どもが勝手にやるのではなく、保護者も一緒にできればやると、親と子との触れ合いの時間や思い出にもなると思いますし、どういう所ができる、できないということも分かります。小学校のうちに自分で勉強することが楽しくなれば、中学校、高校に行つたときにそんなに苦労しなくて済むのかなという思いがあるのですが、そういう時間配分の中でうまく家庭学習をさせるやり方が分からないというところがありますので、良い方法があれば、具体的に教えていただけたらと思います。</p>
戸田学校教育課長	<p>今山形県でさんさんプランというものに取り組んでいます。それが始まった時の思いが暮らしと学びの一体化という</p>

	<p>ことでありました。自分で目標を持って、自分にとって必要な勉強は何かということをちゃんと考えることが出来る子どもを育てていくため、市内各学校取り組んでいます。このキーとなるのが、キャリア教育です。今まで中学校以上でしかキャリア教育については話題にならなかったのですが、今回小学校でもキャリア教育をしっかりとしようということで、今取組が始まっているところです。自分を見つめるところから始まって、社会を見つめ、自分の将来を見つめるところについて段階を追って進めることで、自分にとって必要な学習を決めて取り組めるような子どもを育てていきたいということでもあります。子どもにちゃんと手を掛けられる余裕のある家庭もあれば、中々厳しくて親も心配だという家庭もありますので、どのような家庭の子どもでも全員取り組めるような、そういう力を付けたいと今各学校で取り組んでいるところです。</p>
井上委員	<p>よろしいですか。学習指導改善充実に向けての（４）に、カリキュラムマネジメントのことが書いてありますよね。それは大変良いことだと思うのですが、カリキュラムといえば当然教科の持つ特徴を羅列、並列、並べていくということで、どちらかというところ最近そっちのほうが強くなってしまっています。でも、他に子どもの生活もカリキュラムの中に仕組んでいくという生活単元というものがあるんですよ。効率的に教えましょうということだけではなくて、子どもの生活の中でどのように学んでいくかということも併せてやっていかなくてはいけないと思います。</p>
戸田学校教育課長	<p>現在天童南部小を中心にカリキュラムマネジメントの指定を受けておりますので、今の御意見も踏まえながら、更に良い教育の充実に向けて頑張っていきたいと思っております。</p>
山本市長	<p>次に、「天童市「市民科」教科書作成について」説明を求めます。</p>
相澤教育長	<p>（天童市「市民科」教科書作成について説明）</p>
山本市長	<p>今説明がありましたが、御質問・御意見がございましたら</p>

<p>本田委員</p>	<p>お願いします。</p> <p>この中身を見させていただきまして、大変素晴らしい内容だと思います。しかしながら、大人は歴史とか元々興味があるので割と取っ付きやすいかもしれませんが、子どもたちは歴史から入ると、なかなか難しいのかなというところと、子どもたちにとって楽しいこととか、未来とか、希望とか、そういったものが必要なのではないかなと思いました。また、天童市の特色、天童市は何を目指しているのかというところまで入れてもいいかもしれません。細かい所まで入れると年中中身は変えなくてはならないかもしれませんが。ここにまた戻ってきて住めば、子育てにすごく良い場所だとか、未来に希望を持てる内容で最後を締めくくるといいうようにできれば良いのではないかと思います。</p>
<p>相澤教育長</p>	<p>その通りだと思います。その構成のどの部分の何が良いのかということについて今後検討しなければならないと思っています。天童の未来については、最初は控えめに書いて、第三章の最後で大きく取り上げようかと思ったところでした。</p>
<p>本田委員</p>	<p>天童に未来があるのだということが一番大切かなと思います。最後はその形で結べたらいいと思います。</p>
<p>相澤教育長</p>	<p>御指摘をいただいた導入部分を考える必要はありそうです。歴史ではなくて、こういう事でこの本があるということが分かるようにしていきたいと思っています。</p> <p>ありがとうございました。この場で教育委員会を代表して申し上げます。</p>
<p>山本市長</p>	<p>他にありませんか。</p>
<p>井上委員</p>	<p>大賛成です。是非進めていただきたいと思います。また、これを見ることによって天童市のことが理解できて、プラス行ってみたくなるようなものになればより良いと思います。本で見たものと実際に自分の目で見たいものはとでは全然違うので、自分が直接そこに足を運ぶことに寄与するようなものになればと。あと、もう少し詳しく調べられるようにリンク</p>

山本市長	<p>できるような工夫をするもの良いと思います。</p>
松村委員	<p>他にありませんか。</p> <p>今日初めてこの内容を聞きましたが、非常に素晴らしいものだと思います。天童市市民科教科書の配付対象者が中学一年生ということですが、中一の子どもたちだけでなく、私たち全員がこの本を見ることによって、自分たちが天童市をこれからより良く作っていこうという気力にまでつながっていったらと。例えば、中一の子どもたちだったら、僕たちで頑張って天童市をより良くするんだ、そのために学ばなければというような、天童って凄い、こんな歴史があったんだというようなそういうオールになれるもの。私たちの年代でしたら、このような天童の歴史もあったのか。そしたら子どもたちを一生懸命支援しながら将来私たちのセカンドライフを生きていきたいねというような、そんな教科書になれば素晴らしいのではないかと思います。私たちが天童市を一緒に育てていこう、子どもたちを育てていこう、年長者の方たちを大事にして学んでいこう、年長者の方から学ぼう、そういう思いになれるようなものになったら素晴らしいのではないかと思います。期待したいと思います。</p>
山本市長	<p>いずれにしても、これからの産業の方向というのを考えると、相当人の力というのにも必要になってくるのだと思います。然るべきところできちっと説明をして、作成に携わる方々の理解や協力をいただけるようにする。もし必要であれば編纂委員会みたいなもので編集してやるようにしたいと思います。そして、教育委員会の皆様にはアドバイザー的役割で御指導いただいて、しっかりしたものを出して、さすが天童の教育委員会だと言われるようにしていきたいと思いません。</p>
村山委員	<p>先ほどの学習状況調査に書いてあったように、知っているから好き、好きだからもっと知りたいというような教科書になるのではないかと今からすごくワクワクしております。親からの立場なのですが、学校で時間をたくさん取るのは大変だという話を前にされていたと思いますので、この資料を基</p>

山本市長	<p>に夏休みに自由研究として自分で積極的に調べられるようなものができたら楽しそうだと思います。</p> <p>他にございますか。</p>
相澤教育長	<p>実は作るからには先もあって、例えばこの教科書が完成したら、この教科書の感想文を募集し、さらに、それをどういうふうに思い、どういうふうに見るのかというようなポイントはいっぱいあると思います。そういう事で天童市の理解と未来の街づくりにつなげていければ良いかなと。村山委員の話聞いて同感だと思ったところです。</p>
山本市長	<p>せっかくやるわけですから、この先前向きにみんなで協力してやっていきたいと思います。事務局の方から何か。</p>
遠藤総務部長	<p>お話を伺いまして、天童を好きになってもらうというのが最終的な目標、目的なのかなと思っております。そういった意味で、天童市に生まれた方が、天童市そのものを好きになるような仕掛けを市内の方でも色々とアイデアを出しながら頑張っていきたいと考えておりますので、皆様方の御協力をお願い申し上げます。</p>
山本市長	<p>他にございますか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>